

知って安心

あなたのくすりと健康

聞いて安心

第100号

- 手術の際に休止が必要な薬について…横浜市立大学附属病院 薬剤部 勝亦 秀樹
- 解熱・鎮痛薬の違いについて…相模台病院 薬剤部 八城 学
- まだ遅くない！禁煙について考えませんか？…日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 海老井 佳織

あなたのくすりと健康 創刊100号に寄せて

「あなたのくすりと健康」はおかげさまで100号を迎えました。
本冊子は、県民の皆様への医薬品や健康に関する情報提供を目的とし、1996年6月に当時会長の平林先生のもと発刊されました。以来、年4回発行し、神奈川県内の会員施設（病院・診療所）、図書館、ライトセンター、市役所に配布しております。

神奈川県病院薬剤師会のホームページ内にバックナンバーを掲載しておりますので、よろしければご覧ください。

本冊子には、音声コードが印刷されています。音声読みあげアプリ「Uni-Voice」と活字文書読みあげ装置の両方で使用できますので、ご活用いただければ幸いです。

創刊100号にあたり、ご尽力いただきました諸先輩方、関係各位に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。



2021年3月

公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 会長 金田 光正

<表紙写真>くすり Get the Answers かながわ 推進委員会

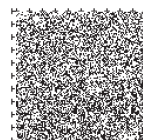
神奈川県病院薬剤師会は、今後も医薬品・健康に関する情報を発信してまいります。

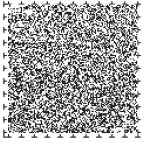
私たちは、市民の方々を対象に医薬品や健康に関する正しい知識の普及と啓発を目的とし、この小冊子を発行しています。ご活用いただければ幸いです。

公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会

2021年3月発行

音声コード





手術の際に休止が必要な薬について

手術を行う際、医師から「手術前、この薬だけは飲まないようにしてください」と言われた経験がある方もいるのではないのでしょうか？

安全な手術の実施においては、使用中の薬や健康食品・サプリメントに注意を払う必要があります。例えば、血液を固まりにくくする作用のある薬を使っている場合、手術時の出血を助長してしまう可能性があります。このような場合、必要に応じて手術前から一時的に薬を休止（休薬）する場合があります。

表に、休薬の可能性のある、代表的な薬（+健康食品・サプリメント）を示します。

分類	代表的な成分名
◎手術時の出血を助長する可能性のあるもの	
抗血小板薬、抗凝固薬 等 (いわゆる、血液サラサラ)	[抗血小板薬] アスピリン、クロピドグレル 等 [抗凝固薬] ワルファリン、アピキサバン 等 [脂質異常症治療薬] イコサペント酸エチル (EPA) 等
健康食品・サプリメント	魚油 (EPA・DHA)、ノコギリヤシ、イチョウ葉エキス 等
◎手術時の血栓（血のかたまり）の形成を助長する可能性のあるもの	
ホルモン剤	エチニルエストラジオール（低用量ピル）、エストロゲン 等
◎麻酔薬の作用増強	
健康食品・サプリメント	セントジョーンズワート 等

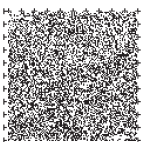
手術の際の休薬は、手術の種類や患者さんの状態、薬の使用目的などを踏まえて総合的に判断され、決して薬の種類だけで判断されるものではありません。普段使っている薬は、患者さんにとって“治療上、必要な薬”であり、一時的でも休薬することは、薬でコントロールされている疾患を悪化させてしまう危険もはらんでいます。

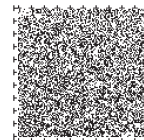
また、休薬する日数も薬によって異なります。絶対にご自身で判断せず、必ず医師の指示に基づいて休薬してください。

現在、外来において手術予定のある患者さんと薬剤師が面談し、休薬の必要性等について確認を行う取り組み（術前薬剤師面談）が広がりつつあります。今後も病院薬剤師として、患者さんが安全に手術を受けられるよう努めてまいります。



横浜市立大学附属病院 薬剤部 勝亦 秀樹
<Keyword>手術、休薬、術前薬剤師面談





解熱・鎮痛薬の違いについて

解熱・鎮痛薬というと、薬の中でも身近な印象があると思われます。発熱に対する解熱目的や頭痛、体の痛みに対しての除痛目的で使用されることがあり、市販薬として、薬局やドラッグストアでも購入できる薬があります。

今回、代表的な解熱・鎮痛薬である非ステロイド抗炎症薬（以下NSAIDsとする）とアセトアミノフェンの効果と副作用の違いについて見てみたいと思います。

代表的なNSAIDs

アスピリン、ロキソプロフェン（ロキソニン）、ジクロフェナク（ボルタレン）、エトドラク（ハイペン）、イブプロフェン（ブルフェン）、セレコキシブ（セレコックス）など

効果の違い NSAIDsは体内の「痛み、炎症、発熱」などを引き起こす物質（プロスタグランジン）が作られるのを抑えることによって、炎症に伴う腫れや痛みをやわらげ、熱を下げます。アセトアミノフェンは脳の中枢神経や体温調節中枢に作用することによって、解熱鎮痛効果を示します。そのため抗炎症作用はほとんどありません。そのため炎症を伴う症状に対してはNSAIDsを使用する方が効果的です。

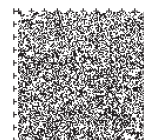
副作用の違い NSAIDsは、胃腸障害、腎障害、アスピリン喘息、造血器障害などの副作用が知られています。一方、アセトアミノフェンは、副作用が比較的少ないですが、過量投与により肝障害を起こすことがあります。市販されている多くの総合感冒薬などにも含まれているため知らず知らずのうちの過量投与になる恐れがあるので注意が必要です。

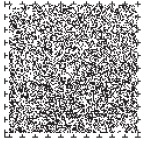
妊婦・小児への使用 アセトアミノフェンは、小児や妊婦・授乳婦にも使用する事ができます。NSAIDsは一部使用されますが、小児には使いづらく、妊婦に対しても妊娠後期には投与しないこととなっています。

	NSAIDs	アセトアミノフェン
解熱・鎮痛効果	○	○
抗炎症効果	○	×
代表的な副作用	胃腸障害、腎障害、アスピリン喘息、造血器障害	肝障害
利点	解熱・鎮痛・抗炎症作用が強い	副作用が少なく、小児にも使用しやすい。剤型が多い。効きが早い
欠点	副作用が比較的多い	抗炎症作用がほとんどない

このように解熱・鎮痛薬にも違いがあり、症状や年齢、既往歴により使い分けていく必要があります。市販薬として販売されている薬剤があるため、どのような薬剤が症状に適しているかなど、薬剤師にご確認下さい。

相模台病院 薬剤部 八城 学





まだ遅くない！ 禁煙について考えませんか？

◇なぜ禁煙できない？◇

主な理由として、ニコチン依存・習慣的依存が挙げられます。たばこを吸うと、ニコチンが体内に吸収され、“目が覚める”、“ストレスが解消される”、“集中できる”といった状態を体にもたらしめます。しかし、一定時間が経過するとその効果はなくなり、またたばこを吸うという繰り返しをしてしまう、これがニコチン依存です。

習慣的依存は休憩中や飲酒時の喫煙などがあてはまります。“この時に一服する”という習慣が身についてしまい、条件反射的にたばこに火をつけてしまうのです。



◇禁煙補助薬とは？◇

禁煙時におけるニコチン離脱症状の緩和や習慣的依存などから抜け出すために使用される治療薬のことです。薬局やドラッグストアで購入できるものや、専門医から処方されるものがあります。日本では下記の禁煙補助薬があります。

種類	おもな特徴
ガム	<ul style="list-style-type: none"> ・効き目が早く、量の調節がしやすい ・口寂しさを補うことができる ・処方せんなしで購入可能
パッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・1日1回の貼り替えで良い ・安定した効果を得られる ・高用量を使用する場合は医療機関の受診が必要
のみ薬	<ul style="list-style-type: none"> ・ニコチンを含まない ・ニコチン製剤が使えない疾患で使える場合がある ・喫煙したときの満足感を抑える

日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 海老井 佳織



ホームページ内の『禁煙支援』をリニューアルしました！

【公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会】

ホームページ <https://www.kshp.jp/>

●他の禁煙関連サイトへもアクセスできます！

《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。

《発行》公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 GTA 委員会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

ホームページ <https://www.kshp.jp/>

